

リスク分析と着工前重点準備

令和8年3月23日

国土交通省北海道開発局

一般国道40号（北海道縦貫自動車道）中川天塩道路 事業費算定に当たってのリスク分析

区分	費目	リスク項目	リスクへの対応状況
①工事			
	改良	湿原湿地堆積物の区域を通過するため、軟弱地盤層が想定以上であった場合、軟弱地盤対策費が増加する可能性。	近傍の地質調査結果をもとに軟弱地盤解析を行い、軟弱地盤対策費を計上。 事業化後に、詳細な地質調査や軟弱地盤解析を実施し、設計・施工各段階において、地質・地盤リスクマネジメントを実施。
	橋梁	事業化後に実施する橋梁施工箇所での地質調査により、下部工と基礎工の構造が変更となり費用が増加する可能性。	航空測量、近傍の地質調査結果や施工実績を参考に、下部工と基礎工の費用を計上。 事業化後に、構造詳細設計や橋梁下部施工箇所での地質調査等を実施し、設計・施工各段階において、地質・地盤リスクマネジメントを実施。
	トンネル	—	—
	IC・JCT	現地調査結果や関係機関協議を踏まえた詳細設計の結果、インターチェンジ形式の変更により費用が増加する可能性。	航空測量や近傍の設計・施工実績を参考に、インターチェンジの費用を計上。 今後、詳細な測量や関係機関協議を踏まえて、インターチェンジ形式を確定。
	舗装	切土区間について、路床の状況により所定の支持力が得られなかった場合、舗装構成の変更により費用が増加する可能性。	北海道開発局道路設計要領や近傍事業の施工実績を参考に、舗装費を計上。 今後、現地CBR試験による支持力確認が必要。
	付帯施設	地吹雪が頻発する地域を通過するため、現地調査の結果、必要な防雪対策工の規模が増大する可能性。	吹雪対策マニュアルに基づき、防雪対策（対策箇所・対策工）を検討し防雪対策工の費用を計上。 事業化後に、詳細な現地調査等を実施し、防雪対策（対策箇所・対策工）を確定。
②用地及補償			
	用地	現地調査結果を踏まえた詳細設計の結果、影響範囲が増大し用地費が増加する可能性。	用地課へのヒアリングを参考に用地費用を計上。 今後、詳細設計を踏まえて、必要な範囲を確定。
	補償	鉄塔を1基支障とするほか、交差する送電線との離隔が不足している箇所が複数あるため、鉄塔の移設費用が増大し補償額が増大する可能性。	用地課へのヒアリングや直近事業化事例を参考に補償費用を計上。 事業化後の協議を踏まえて必要な補償額を確定。

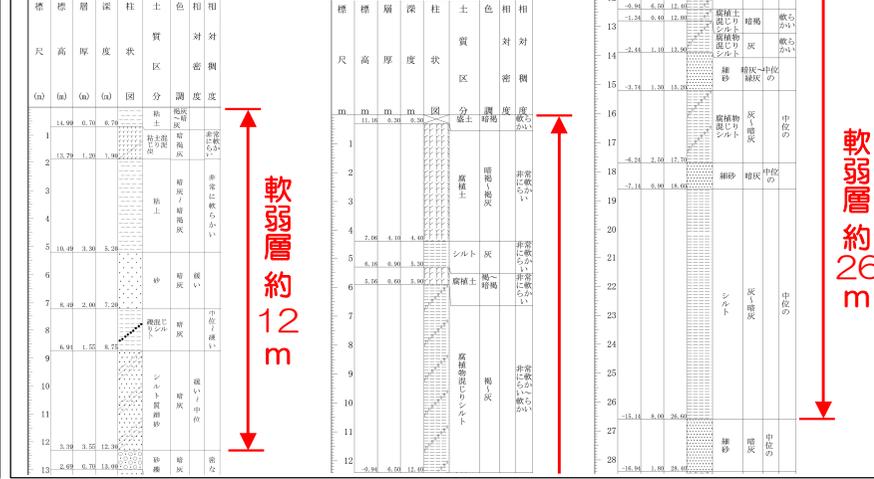
一般国道40号（北海道縦貫自動車道）中川天塩道路 なかがわてしお 事業費算定に当たってのリスク分析

- 一般国道40号(北海道縦貫自動車道)中川天塩道路は、泥炭層(軟弱地盤)が存在する可能性がある湿原・湿地堆積物が分布する区域を通過する計画。
- 隣接事業の既往調査箇所では、約26mの軟弱地盤層が確認されているが、本区間で実施したボーリング調査では軟弱地盤層が約12mと想定よりも薄いことが確認された。しかし、調査箇所が限定的で不確定要素もあることから現時点の事業費の算定においては、既往調査箇所の地質結果を「湿原・湿地堆積物分布区域」における軟弱地盤対策工として想定しているが、今後の調査により対策費が増加する可能性有。

地質分布図(シームレス地質図)

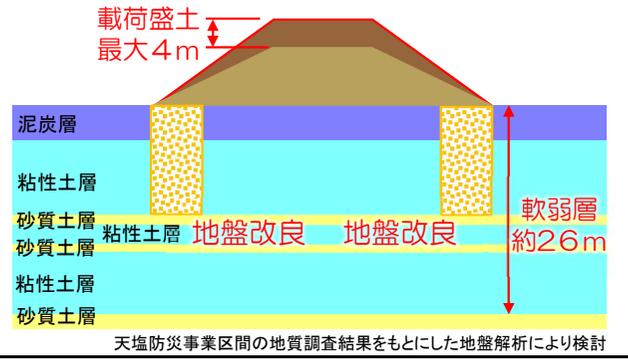


中川天塩間調査結果 既往地質調査結果 ※H22.11に天塩防災事業で実施

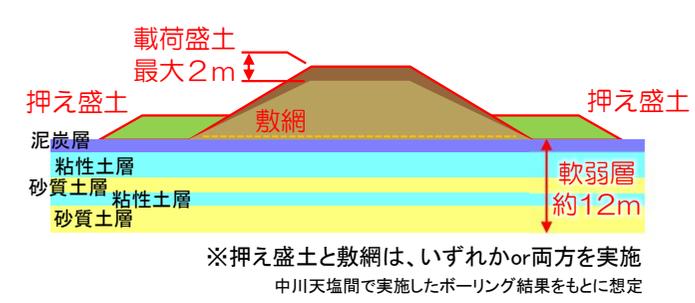


○軟弱地盤対策

湿原・湿地堆積物分布区域の対策(既往調査箇所)



湿原・湿地堆積物分布区域の対策(本区間調査箇所)



※控え盛土と敷網は、いずれかor両方を実施
中川天塩間で実施したボーリング結果をもとに想定

軟弱地盤の脆弱性や深さが想定以上であった場合、軟弱地盤対策費が増加する可能性。

